

岩倉城 (別称：小鴨城)

所在地：倉吉市岩倉

標高：247m 比高：154m

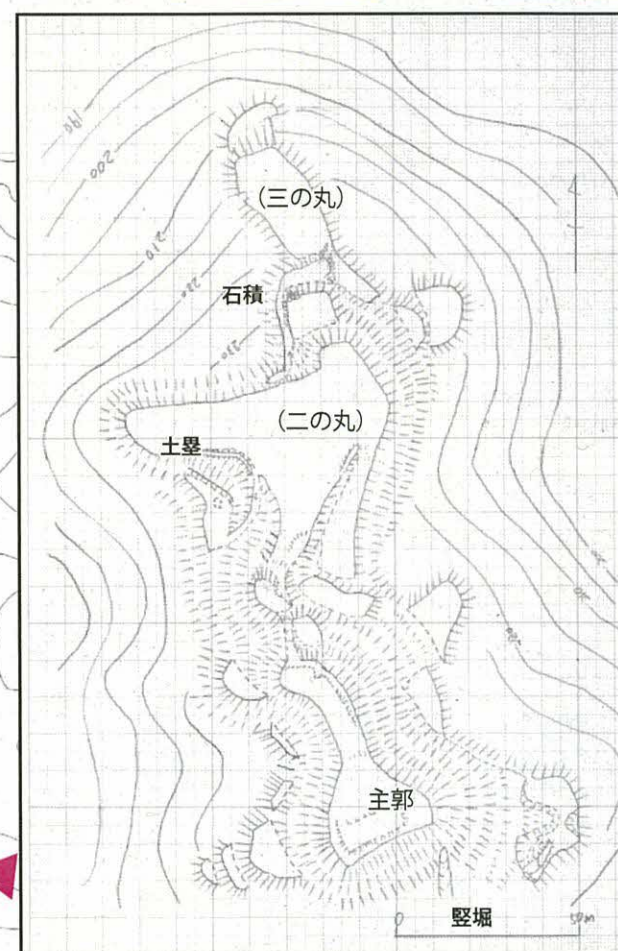
倉吉市南部に、天神川支流の岩倉川東岸に位置する丘陵に築かれています。東伯耆の有力国人、小鴨氏の居城であり、鳥取県内でも有数の大規模城館です。郭は、大きく山頂部と山麓部に築かれ、山頂部の郭群は南端の主郭から「二の丸」、「三の丸」と比較的大きな郭が連続することが岩倉城の大きな特徴です。

頂部は林に囲まれているが、「二の丸」からは倉吉盆地の西部への眺望が開けています。

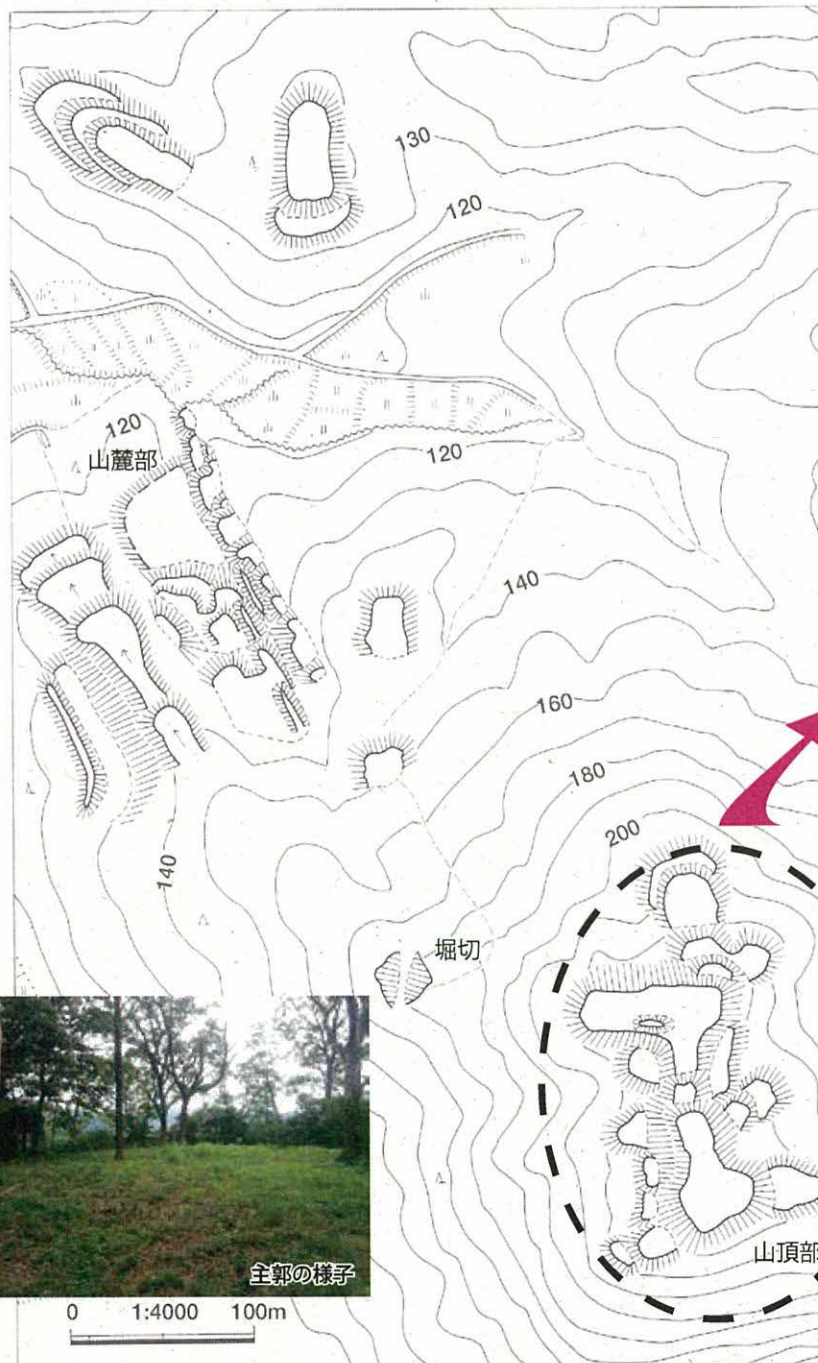
主郭は長さ25m、幅30mの平坦面に北側が長く突出する形となり、南東斜面には塹壕が設けられています。



北から見た岩倉城



岩倉城山頂部拡大 (S=1/2,000)



岩倉城略測図



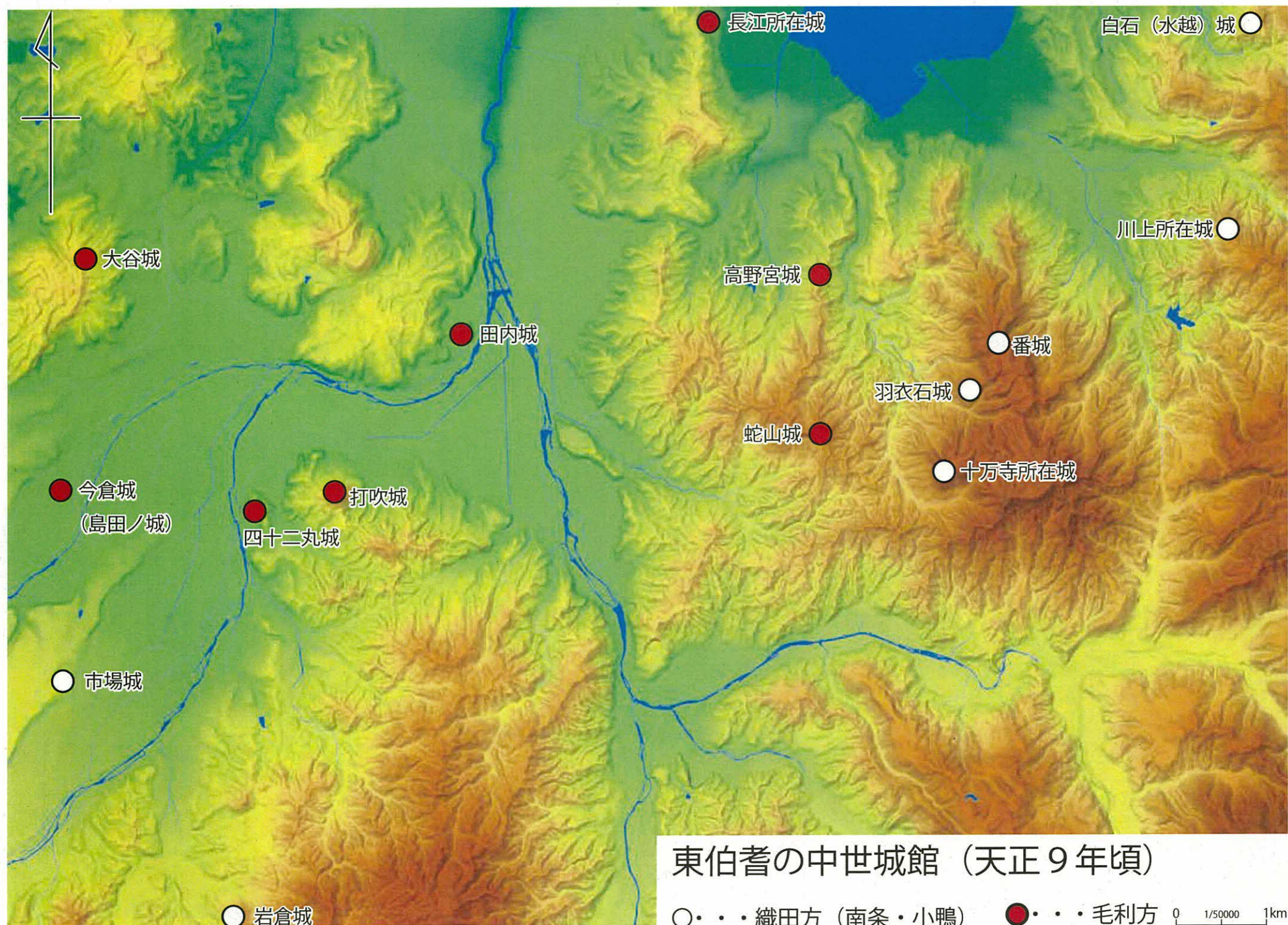
主郭の様子

0 1:4000 100m

天正九年 伯耆國岩倉合戦今田中務少輔大弓之事

同年正月伯州岩倉ノ城主小鴨左衛門進元清ガ手ノ者共毛利家ヨリノ付城島田ノ城ニ趣テカク毎日小迫合シケリ城中ニハ正徳院西堂利安小鴨四郎次郎鈴川次郎左衛門等在ケルガ何モ勇氣有ル者ナレバ毎度打出テ敵ヲ追立ケルヲ見テ元清モ多勢ニテ助ケ來リ南風北風會戦スル事無慮ト是ヲ聞テ吉川勢今田中務少輔伊志源次郎等岩倉勢ヲ可討トテ同二月二十二日四百餘人大宮ト云處ニ伏兵ヲ作リテ傍ナル山上ニハ森脇市正ヲ置敵伏勢ノ上ヘ乘來ラバ相圖ノ態ヲフク其聲ニ應ジテ所々ヨリ一度ニ起シ合セテ敵ヲ可討トテ定メケル處ニ栗屋源義同朝朝枝與三太郎ト云者アリ何モ父ノ源義ニモ不劣至剛ノ者ナルガマダ二十前後ノ若武者ナレバ血氣熾盛ニ己ガ勇ニ自負スル心有テ當家二人コン多キニ出雲軍人ノ森脇ニ相圖ノ態ヲ吹セ合戦懸引ノ知下テ令成事ノ奇程キヨト感レケルガ伏勢シタル阿邊ニ白木綿掛テ紳々シキ森アリ分入テ見レバ一字ノ古キ義洞ゾ有ケル栗屋兄弟彼神前ニ詣テ獅子拍犬ナドテ取出シ敵事シテ居タリケリ此テ小鴨四郎次郎正徳院利安等足輕ヲ出シ敵勢ヲ呼引ケレバ岩倉ノ城中ヨリ兵隊ノ若者共二百餘人出テ下シ追立々々行程ニ伏勢ノ其中ハ泛々ト馳來ル森脇市正時分ハ能ゾト思相圖ノ態ヲ吹ケ共吹ケ共不鴨ケリコハ不思議也今日ノ軍ノ凶事ゾト思ケレバ立替々六七人シテ吹ケ共更ニ不鴨ケルコソ怪シケレ伏ノ兵共相圖ノ態キ鴨ルト待ケレ共其聲ノセザレバ或ハ相圖ヲ待テ不起モアリ又ハ敵思フ圖ヘ來レリ何ノ期チカ可待トテ伏テ起スモ有ケル程ニ思々風々ニ打テ蒐リケルガ敵小勢ナレバ一掃モ不厭哉我先ニト逃ノケリ伏ノ者共勝ニ乘テ退懸既ニ岩倉山ノ麓迄馳行ケル所ニ小鴨元清今日ハ何トヤラシ足輕追合ノ探無心テ物見テ出シタリケルニ敵ニ伏勢有テ味方打負スト告來ル元清キレバコソトテ究覺ノ兵五百許弓鐵砲ヲ前ニ立テ眞黒ニ成テ助來ル所ヘ伏勢共下テ行達タリ元清得タリ賢シト弓鐵砲射係ケルニ敵ニハ弓鐵砲一挺モ無レバ唯的ニ立テ敵射射也其中ニ今田中務少輔司持ヲ有ケルガ近國無雙ノ大弓ナレバ大鷹保取テ打番ヒ敵々ニ射ケルニ鳥羽權允先始メ一矢ニ敵數多射貫キケリ其時側ニ在ケル栗屋市允今田中務仕タルカト覺候トゾ名乗ケルカレ共敵ノ矢無有テ今ハヤ三筋計ニ射殘ケルガ亦打番ヒ小鷹ノ回ル程引シホリ切テ放ツ武矢石ニ立テ石火活ト出鐵碎ケテ飛返ル敵アラ大使敵ノ弓精ヤト驕ラ消シ舌ヲ卷所ニ細田源允ハ叔父鳥羽ヲ今田ニ射サセ無念ニ思ケレハイカニモシテ一鎗突キヤト思林ノ中ヲ傳テ忍寄岩ノ陰ニ伏テ見レバ今田矢取テ番ヒ引哺テ居ケルチアノ矢放タテ走り懸テ突ント箭ケルガ射放ツヤ香キ飛テ置ル所キ矢繼疾ノ今田ナレバ矢取テ打番ヒ能引テ向ヒケルニ餘リニ急ニ馳寄ケル故細田方鎗ト矢先ト其間五寸計ニ迫リケレバ若射外シテアラカバ細田ニ突ルベシト思引哺テ放テ不得細田モ亦突ントスレハ大弓ノ今田矢放ントスル程ニ鎗ト矢ノサキト先ト衝合セテ響ハ既ミ合ニ在ケルガ今田左ノミハ爭持滿ベキ感切テ放ツ矢細田ガ背ノ肉ト皮トヲ掛テ射切タリ細田モ敵ノ矢放アト見ルキ否ヤ踏込テ突ケレバ今田ガ弓手掛指ニ中リ弦ヲ突切テ頸ノ傍チシタカニ突切ケル間サシモノ今田モ能キテ重テ敵ヲ打テ事難ク細田モ深手ナレバ左右方ノ味方共馳寄テ二人乍各肩ニ係テ相引ニコソ引ニケレ栗屋市允ト市川雅樂允カ郎察長峰登兵衛二人ハ後ニ殘テ堪ヘケル所ニ敵方ヨリ安部太郎右衛門ト石乘鎗打振テ懸リ來ル栗屋長峯ハ太刀ヲ以テ切テ蒐リ響支ヘテ戦ヒケルガ敵後ヨリ大勢結リテ見テ安部ヲ少突退ケ其隨兩人ハ引取テ歸ニケリ敵頻リニ追來リケルチ見テ栗屋源義取テ返シ大勢ニ渡シ合セ敵入突伏討死シケレバ並非作尤モ同ク返シテ戦死セリ朝枝與三太郎ハ兄ノ源義討死スト或者ノ告タルヲ聞ヤ否キ引返スチ見テ栗屋新三郎モ同ク返シテ戦ケルガ與三太郎チハ安部太郎右衛門鐵砲ニテ打殺シケレバ新三郎モ數人切伏討死セリ森脇大將市川雅樂允佐々木豊前内藤平左衛門モ返シテ敵數多切伏ケル間今ハ敵モ長追ヒズ引返ス城兵ニハ村井三郎四郎久田十太郎米田源八討レニケリ

『陰徳太平記』卷六十二から引用



東伯耆の中世城館 (天正9年頃)

○・・・織田方 (南条・小鴨) ●・・・毛利方 0 1/50000 1km

岩倉城をめぐる関連史料

倉吉市

城名・陣名	所在地	西暦	和年号	日付	記載事項 (合戦内容・構成要素・諸施設等)	典拠
岩倉	倉吉市岩倉	1566	永禄9	11.28	雲州富田下城迄相届衆中次第/村井三郎次郎 伯州岩倉ニテ討死ト云	佐々木文書
		1570	(元龟1)	2.21	伯耆国岩倉城主山田越中守居城を尼子勝久不意ニ押寄攻取(参考)	関115湯原
		1570	(元龟1)	3.03	伯州之儀是又多分此方一味候、岩倉・八橋于今相支之由候	関115湯原
		1571	(元龟2)	7.09	誠去年之儀ハ御方(山田)頼御下候而、羽衣石之事被持抜種々御行付而	藩中諸家(山田)
		1572	(元龟3以前)		岩倉為向城去月十四日淀山被取付候、岩倉切岸迄日々被差寄被得勝利之由候/三頭・岩倉何も雖御同前之儀候	山田家古文書2-4
		1573	(天正初)		天正之初、諸国動乱之刻、岩倉之城主南条元清毛利家之為ニ没落シテ(参考)	曹源寺御開山由来記(慶長年間)
		1580	(天正8)	11.23	北口之儀、鳥取堅固被持堅候、羽衣石・岩倉数ヶ所相城被取付之由候	関100児玉
		1581	(天正9)	3.20	去月廿二日、岩倉表行被仰付候、ふてきに候て、栗藤右(栗屋)・同与三太郎討死候	石見吉川145
		1581	(天正9?)	3.21	於岩倉表之立用候/去二月廿一日至岩倉之動申付候時、経言供奉仕之随分相合戦之因討死候	藩中諸家(笠井)
		1581	(天正9?)	5.08	先度於岩倉合戦之時、敵宗徒之者三人御方御人数被討捕之由候	山田家古文書1-2
		1581	天正9	10.28	羽柴筑前守秀吉出陣/即時に南条表に相働き、羽衣石といふ城、南条勘兵衛御身方として相抱候、おなじく舎兄小鴨左衛門尉、岩倉といふ所に居城/吉川罷り出て右の両城へ着き向ひ、三十町ばかり隔て、馬の山といふ所に張陣なり	信長公記
		1581	天正9	11.01	羽柴筑前守秀吉/羽衣石近所に七ヶ日在陣候て、国中手遣ひ候て、兵糧取り集め/馬之山へ差し向かひ、羽衣石・岩倉両城へ取り続き、	信長公記
					長和田(天正7)八月十三日合戦已後加り田等被仰付/岩倉之付城ニハ宇津吹之城・島田ノ城此両城/羽衣石已前、淀山城・叶市ノ城・清水ノ城・宇津吹ノ城・尾高ノ城/宇津吹ノ城ハ羽衣石ノ城落去已後御預ケ被成、出丸ニ出雲守、出丸ニ北谷被居候事	山田氏覚書(参考)
			吉川広家功臣人数帳/伯州・岩倉・栗屋藤右衛門尉・朝枝与三太郎・栗屋新三郎・笠井彦五郎	吉川追加2		



鳥取県教育委員会 2004『鳥取県中世城館分布調査報告書』第2集(伯耆編)から引用

主催 鳥取県埋蔵文化財センター
共催 倉吉市教育委員会文化財課
協力 岩倉自治公民館